

テーマ

加工・業務用需要に対応した土地利用型野菜の安定生産

活動内容

・石巻地域の農業産出額は198億円(H18)で、米価低迷等の影響を受け10年間に100億円減少している。農業産出額の回復には、土地利用型営農組織へ新品目を導入し、販売額を向上させる方法が有効と考え、平成18年度に石巻管内の食品加工業者を対象に、野菜の利用意向調査を行った結果、地元野菜への需要が高いことが判明した。

・そこで、平成19年度から土地利用型営農組織を対象に、新たな経営部門として加工・業務用野菜に注目し、生産誘導や契約取引販売、生産部会の育成、各営農組織の経営改善支援を行った。

活動成果

・加工・業務用キャベツは、セル成型トレイでの自家育苗と殺虫剤の灌注処理、畦立て局所施肥機での基肥施用、野菜移植機による定植、大豆中耕培土機での追肥・土寄せ、ブームスプレーヤーでの農薬散布、雇用労力による適期収穫など転作田での省力機械化栽培体系を確立した。

・加工・業務用キャベツの計画生産と実需者との契約取引による安定販売を図るため、平成21年7月に5団体でJA いしのまき加工業務用野菜生産部会が発足した。部会の現地検討会や先進地視察研修での情報共有化により、栽培技術や販売意識が高まり、平成20年の作付面積3.7ha、出荷量156tに対し、平成21年の作付面積5ha、出荷量250tの目標達成に向け、活動が活発化している。

・土地利用型営農組織等の各経営体とも、加工・業務用キャベツの作付面積を拡大し、新たな経営部門として定着させ、周年就労・雇用創出、資金繰りの安定化など経営展開が図られ、地域の活性化に役立っている。

※平成20年度全国普及活動フォーラム一部発表事例